

北海道士幌高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において平成29年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育で人材を育てる学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1) 生徒の目的意識の向上のため、明確な課程を計画できる活動実践	B	○『志』プロジェクトの実践 夢や希望をプランニングして実現できるプロセスを作り上げる。 ○PDCAサイクルを用いた教科学習の実施
		(2) プロジェクト学習を中核としたPDCAサイクルを意識した活動	A	
		(3) 進路実現に向けた外部講師の活用	A	
II 地域社会・産業に寄与する学校	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1) 普通教科との連携による外国語学習の充実(ALTの活用)	B	○町の英語教育と連携した活動を行う。(海外文化交流、イングリッシュキャンプ) ○グローバルGAP取得を日頃の教育活動に生かし、意識の向上を図る
		(2) JICA研修による生徒の交流学習(年2回実施) (3) グローバルGAPの実践	A A	
III 地球環境を守り創造する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1) 地域特産物を活用した栽培方法の検討	B	○自然栽培の実践による病害虫観察、土壌の変容経過観察 ○センサー、ドローンを活用した農業生産の確立をはかる
		(2) IoTを活用した農作業の見える化、効率化の検討	A	
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1) 主力農産物を応援する野菜栽培の確立 (2) 地域食材を用いた加工食品の開発とマーケティング学習による販売方法の確立	A A	○士幌町商標登録”チア”ベジタブルの試作(新品種の作付け) ○商品の販売に必要なマーケティング学習を外部講師等を活用して実践する
IV 地域交流の拠点となる学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1) JAS有機の取組、グローバルGAPの取組により環境に配慮した管理の実践	B	○グローバルGAP取得から農作物管理を実践する ○環境専攻班の活動を中心に情報発信していく
		(2) 課題研究「環境専攻班」によるプロジェクト活動の推進	B	
	⑥「食農」教育を推進します。	(1) フードシステムを生かした、食農教育の実践	B	○栽培→収穫→加工を生かした、日頃から連携した取り組み ○”チア”の取り組みからチアフードの開発
		(2) 地域食材を生かした加工体験	B	
		⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	(1) 地域の食材を生かした加工商品の開発 (2) 新たな食材の開発・試作 (3) 地域の観光資源の発掘	
V 地域防災を推進する学校	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(1) 高校より地域の魅力を発信する取り組みの実践	B	○高校で新たな取り組みを実践し、高校に足を運んでもらえる活動を行う ○生徒を生かした情報発信から新たな交流を産む活動を行う
		(2) 地域の交流場所となる取り組みの実践	A	
	⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。	(1) 士幌町農協との連携 (2) 士幌町産業振興課との連携 (3) 上記の連携を中心とした情報発信	B A A	
⑩「地域防災を推進する」教育を行います	(1) 士幌町新道の駅を地域の防災拠点として、防災の日に想定する災害をもとに防災訓練を行う	B	○防災拠点としての道の駅での防災訓練を実施して、災害時準拠点として登録されている道の駅をPRする	